

杭基礎設計便覧 令和2年9月 正誤表

訂正箇所		誤	正	備考	摘要
ページ	行など				
23	6	万が一の <u>自体</u> にも	万が一の <u>事態</u> にも	自体→事態	第2刷で修正
227	23	19) (独) 土木研究所:性能規定体系における道路橋基礎の安定照査方に関する研究, 土木研究所資料, 第4136号, 2009.3.	19) (独) 土木研究所:性能規定体系における道路橋基礎の安定照査法に関する研究, 土木研究所資料, 第4136号, 2009.3.	照査方 →照査法	第2刷で修正
356	16	式(Ⅲ.6.9)では, $\alpha_p \eta_p$ として杭の中心間隔	式(Ⅲ.6.9)では, $\eta_p \alpha_p$ として杭の中心間隔	$\alpha_p \eta_p \rightarrow \eta_p \alpha_p$	第2刷で修正
359	7	直径0.3m の剛体円板による平板載荷試験の値の相当する水平方向地盤反力係数	直径0.3m の剛体円板による平板載荷試験の値に相当する水平方向地盤反力係数	の→に	第2刷で修正
456	7	1) 杭先端部の内部に充てんするコンクリートについて, 水中でコンクリートを打設する場合のコンクリート強度は, [道示Ⅳ]表-5.2.2 に従ったものであること	1) 杭先端部の内部に充てんするコンクリートについて, 水中でコンクリートを打設する場合のコンクリート強度は, [道示Ⅳ]表-5.2.2 に従ったものであること。 また, 打設にあたっては, [道示Ⅳ]15.8.8の規定に従ったものであること	追加	第2刷で修正
464	17	支持力及び圧密沈下量の具体的な算出法は, [道示Ⅳ]10.4, 10.5, 12.4.4及び9.6.3 に準じる。	支持力及び圧密沈下量の具体的な算出法は, [道示Ⅳ]8.5, 10.6.2, 10.7.1及び10.7.2 に準じる。	10.4, 10.5, 12.4.4 及び9.6.3 →8.5, 10.6.2, 10.7.1及び10.7.2	第2刷で修正